

様式3 令和5年度 新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

<p>目指す学校像 (重点目標)</p> <p>主体的に学ぶ生徒を育成し、美しさや温かさを実感できる常に前向きな学校                  ① 夢をもたせ、自主的な学びの伸長に努める学校                  将来に夢と希望をもたせるとともに、授業規律を徹底する中で、わかる、できる、楽しい授業を日々展開すること。そして、勉強の中身がわからない、勉強の仕方がわからない、なぜ勉強するのがわからない、これらに応じてあげることで、自信をもたせ、自主的な学びを伸長するよう努める。                  ② 温かいあいさつと笑顔があふれる学校                  心のこもった元気なあいさつと明るくやさしい笑顔で教師自らが実践し、生徒全員が自然にできるようにして、学校全体にあいさつと笑顔があふれる温かな学校となるようにする。                  ③ 美しい環境づくりに努める学校                  「環境は人をつくる」といわれる。環境のはたす教育的役割について探求し、季節の変化に応じた心に響く学校・学級環境整備や、心を磨く清掃活動などに、子供と教師が一体となって努める。</p>	<p>学校名</p> <p>新座市立第六中学校</p>
	<p>実施日</p> <p>令和6年 1月17日</p>

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
<p>学校は、生徒一人一人がかけがえない存在であることを理解させ、自分を大切にしながら、よりよい生き方を求めて生活するよう、生徒指導体制並びに教育相談体制を整えて、速やかな対応を行っている。</p>	B	<p>月に1回生徒指導部会に教育相談主任が参加するなど、両部会の連携も行っている。また、生徒アンケートでも「悩んだり困ったときに相談にのってくれることを知っていますか」という問いに対しては87、8ポイントの生徒が「十分できている・ややできている」と回答している。学校として可能な限り対応はしているが、生徒間のトラブルや登下校時のマナーなど、課題は少なくない。</p>	B	<p>生徒一人一人が、かけがえない存在あり、夢と希望を抱き自己実現を目指して成長していく過程が「中学校の貴重な3年間」である。学校は、人が成長する過程を大切に、一人一人の教育的ニーズを把握し、学校教育の視点・特別支援教育の視野から支援体制をつくり、個々の生徒の特性把握に努めている。教育に関する複雑な事案が数多く多発する中であっても、学級担任が学習意欲向上に取り組み「ひとつひとつ」丁寧に生徒のニーズに応じて、日頃の生徒の行動や言動を意識して取組んでいることを、授業内容・学習活動の中で感じる事ができる。学校は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員、特別支援教育コーディネーターを中心に組織的な生徒指導体制及び教育相談体制を整えて、迅速な相談活動に取り組んでいる。これらの対応について、総合的判断により高く評価したい。</p> <p>また、情報ファイルを有効活用しながら、一人一人の教育的ニーズを大切に教育相談部会を中心に組織的に取り組んでいる。併せて支援策についても、専門スタッフからの知見を参考に具体的に組み立て、全教員が取り組む情報ファイルは、効果的に運用し活用されている。学校は、実践活動における質の向上を目標に、授業内容・学習支援内容の充実に取り組んでおり評価できる。</p> <p>生徒指導については、チームワークで情報共有し、対応をしてほしい。教員一人一人の力量にたよるのではなく、地域等の連携を増やし、多くの人のと関わりで問題に取り組んでほしい。</p>

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
<p>学校は、課題の提示から振り返りまでの一連の授業ベーシックを確立し、学校全体で共通認識のもと、生徒参加型の魅力ある授業実践を行っている。</p>	B	<p>市の委嘱を受け、「豊かな心を持ち、自ら考えを表現できる生徒の育成」を主題とし、研究を進める中で「六中授業ベーシック」を作成し、指導者を招いて研究授業を行うなどしながら、授業実践を行っている。</p> <p>国や県の学力調査の結果においては、本校の正答率は国や県を下回っており、さらなる授業改善と学力向上が課題である。</p>	B	<p>生徒参加型の魅力ある授業の実践は、学習意欲を高めて積極的な授業参画を促し、学習に対する研究意欲を生み出す原動力となる。学びの魅力をどのように伝えて、理解を促し、学習意欲を高めていけるかが、学校が学校たるところの生命線であるといえる。学校は、課題の提示から振り返りまでの一連の授業ベーシックを確立させ、生徒にとって「見方・考え方・感じ方」を活性化エネルギーとして、未来への希望や夢の中に、無限の可能性が感じられるカリキュラム・マネージメントを生かした授業展開を目指している。各教科を通じて「学びを学ぶ」「見方・考え方」その価値を探りながら、資質・能力の育成に努めて、将来の大きな夢と可能性に向かう、「学ぶ場所」が学校であって欲しい。</p> <p>学びには、ドラマとストーリーが、必要である。そのドラマとストーリーを演出するのは、教師であり生徒自身でもあるが、校内環境を整え、学習環境を整備してよりよい学習環境を演出していくのは、学校に関わる者の責務であると考えられる。学校は、活力ある学校を目標に掲げて、学習意欲が感じられ、魅力ある授業実践へと導く活動意欲が助長される雰囲気を持ったが学校を目指していただけると有難い。学校全体で共通認識を高めて取り組んで欲しい。</p> <p>生徒参加型の授業で、楽しそうな表情の見られる授業のある一方、教員のコミュニケーションが不足し、生徒の集中がかけられない授業もあった。教員により授業内容に差がつかないよう、また、子供たちがより自主的に授業に参加できるよう、活用できるものは最大限に活用し、教員の負担も軽減できるとよい。</p>

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、生徒の社会的・職業的自立に必要な能力など、自身に関わる課題として認知させるシテズンシップ教育の推進を行い、自己指導能力の向上に努めている。	B	生徒会における「ルールメイキングプロジェクト」や、あいさつ運動、花壇ボランティアにおける地域の方と生徒会実行委員会の共同実施などにおいて、シテズンシップ教育の向上に努めている。 生徒同士がディスカッションし、折り合いをつける特別活動の学習に課題が残る。今後は、指導者を招いての研修会を設けるなどし、取組の推進を図りたい。	B	「あいさつと笑顔で始まる第六中学校」の雰囲気定着しており、明るく元気にあいさつし、言葉を交わすさわやかな姿が評価できる。あいさつを通じて、相互の人間関係を大切にしたい、地道な指導の取組みが成果を上げている。あいさつ運動、花壇ボランティア、ルールメイキングプロジェクトなどのシテズンシップ教育の向上に努めており評価できる。社会的・職業的自立に必要な能力を養うため、自己有用感を高める学級経営と日頃の生徒指導で一人一人に社会性を身に付けさせようという教職員が共通理解・共通行動を取っている。学習に集中できる環境を整え、自己有用感を高め、自主的・主体的に活動し「知る力」「生きる力」「考える力」を養うため学校研究課題に基づく授業づくりに取り組んでおり評価できる。継続的な学びを目標にして、共通の研究課題を話しあい、様々な教科の授業を参観し合い、学力向上を目指して、「わかる授業、伸ばす授業、定着する授業」を実施して授業改善に取り組んでいる。生徒の一人一人が自己有用感を深め、主体的な学習意欲向上に取組み、よく考え、よく学び、確かな学力を身につけて、生徒が自ら考え、判断して、正しい行動ができるよう、指導方法に工夫と改善が見られる。 あいさつ運動には多くの生徒が参加し、とても活気があったが、その他のボランティア活動にももっと生徒に参加してほしい。花植えや草取りなどを生徒主体で行い、自分たちの学校を自分たちで過しやすいものにしていくという気持ちを育ててほしい。草取りなども短時間の活動でも継続して行うことで、効果的に進めるのではないかと。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて、意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	清掃のない金曜日をのぞいて、全生徒が昼休みに着替えをすることとしたところ、運動場で身体を動かす生徒が増えた。保健体育の授業においても、研修テーマに基づいた実践を積み重ねた結果、主体的な活動場面が増えてきている。	A	保健体育の授業では、生徒たちが楽しそうな表情で真剣に取り組んでいる様子が見られた。また、長距離走等のつらい種目でもどのようにしたら生徒たちが頑張ることができるか、教師が工夫をしているのが伝わった。運動に苦手意識をもった生徒には、体力向上の大切さを意識できるような授業を心がけている。体育の時間を中心に、明るく元気に活動できるよう、環境面に配慮して、効果的な運動を組み合わせ、体力の向上につながる授業に努めている。 部活動については、国・県・市の方針に則り、生徒の自主性、自発性をさらに尊重した活動が展開できるよう工夫している。また、生徒の自主性、自発性を尊重し、積極的に参加するよう働きかけており、体力向上につながる指導が計画的に実施されており素晴らしい。 休み時間においては、各学級の仲間を中心に人間関係を意識して、適度な距離を保ちながらも、積極的に体力作りに取り組み、運動量の確保に向けて環境を整え、休み時間を有効に使って、体力が低下しないよう無理のない範囲での取り組み、指導していただいている。細かい配慮からの指導も評価に値する。 日常生活においても、体力の維持向上の大切さと必要性が生徒に伝わるように指導をお願いしたい。体力の維持向上は生徒、自らの健康的な生活の支えとなり、学習意欲を維持する源ともなるので、体力の維持向上に向けて学習指導を丁寧に着実に積み重ねていただきたい。日頃からの体力向上に努める雰囲気と目標を持った学校を目指していただけたら有難い。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて、定期的に情報提供している。	A	ホームページでの情報発信の意義は大きいと考える。今後も引き続き、学校生活の「見える化」を図っていききたい。 今後は、学校からの発行物のペーパーレス化が進んでいく。学校からの発信物について、保護者・地域の方々が興味をもって閲覧できるように、発信方法について検討をしていきたい。	A	内外共に安定して情報提供されているとともに、学校生活の様子は「見える化」され具体的に理解しやすい。ホームページも定期更新され、学校の中での活動状況が、写真付きで更新されている。「校長ブログ」では、学校の日常が伝わるため、保護者も安心できる。ホームページについては見たことがない保護者もいると思うので、もっとアピールしたらよいのではないかと。 また、学校だより、学年・学級だより、保健、給食だよりなどの定期的な発行も継続して行われている。情報源も充実しており、学校の中での活動や学級の様子がわかりやすく手に取るように丁寧に紹介されている。保護者あての通知は、「学校情報配信アプリ」で行われるようになり、迅速で正確なデジタル情報提供が、学校への信頼と関心を高め、地域住民や保護者からの信頼も高めている。 「学校だより」などのアナログ情報の定期刊行物の発行は、町内会・地域住民、保護者とも協議・連携させ、コミュニティスクールとして住民認識も深まり、学校と地域との距離が身近になっており、良好な信頼関係が保たれている。 地域住民の多くから信頼され「地域と共に歩む学校」へと意識が変化した。保護者、地域住民、PTAとの地域連携も良好になり、地道な連携の積み重ねが、学校関係者から高い評価を得ている。加えて、不審者対策、校内清掃美化活動、あいさつ運動、コミュニケーション運動、声かけ運動等々の定着に努めて、地域ボランティア活動者との連携も良好に展開されている。この点も評価に値する。